

和 ~ なごみ ~

創刊号 No.1

平成15年3月1日発行

発行 医療法人協和会
協和会病院

発行責任者 増田 公人
連絡先 電話06(6339)3455(代)
ホームページ http://www.kyowakai.com/

発信！ 私たちの病院を知って下さい。

協和会病院の広報誌「和なごみ」の創刊号をお届けします。当院のことをもっと詳しく知りたい、といった要望に応えるために、病院から情報を発信したいと思います。また、もっといい病院になって欲しいという患者さんの意見や感想も掲載する方針です。



広報誌委員会 委員長

柏木 敏宏

創刊号の発行が当院の創立十五周年にあたります。そこで、特集に医療法人協和会の木曾賢造理事長のご挨拶と増田公人院長のインタビューを掲載しました。

また、十五年の歴史を簡単な表にまとめました。病院用語が多く、分かりにくいかもしれませんが、当院の発展の軌跡を大まかに知っていただけたら幸いです。

特集以外では、まず当院の診療を全般的に案内します。次号以降、当院の具体的な診療内容を特集として、あるいはニュースとして具体的に紹介する予定です。

患者さんからの情報としてこの号では、現在リハビリテーション科に通院するリハビリ科に勤務するリハビリ科の作業所「ピューマン」で活躍の久留島悦治さんに、最近の生活の様子などをインタビューさせていただきました。次号からは、投書函に寄せられた辛口の批評も掲載することを考えています。

祝 協和会病院 開院15周年！



医療法人協和会 理事長

木曾賢造

協和会病院が開院15周年を迎えました。顧みればこの15年間、高齢化社会の到来と医療行政の変革という嵐に吹きさらされました。このような中で、病院として日々成長することができたのは、一重に患者様に支えられたからこそであり、ここに篤くお礼申し上げます。高度先端医療の先進地である吹田市にあって、協和

祝

協和会病院 開院15周年

開院15周年を迎え 増田院長に突撃インタビューを行いました。

広報誌委員 杉原幸恵 山口里美



Q1 この15年を振り返ってみていかがですか？

医療法人協和会の3番目の病院として、救急からリハビリ、訪問看護までを考えた、当時としては新しいタイプの病院を目指してスタートしました。しかし、医師会との協調、地域住民の求める医療など問題が山積し、なかなか思うような医療が展開できずに苦労しました。

開院当時はリハビリを中心とした医療を提供。リハビリの対象者が比較的高齢の方達でしたので老人病院とまちがえられたこともありました。最近では、急性期医療(救急)を活発におこなっていることを医師会、地域住民の方々にご理解いただきたいと思います。

現在、インターネット等ですでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、協和会病院においては、総合診療をしています。内科、消化器内科を専門にしています。特にエコー、CT、MRIなどの画像診断を駆使して早期に肝臓癌を発見して従来の塞栓術、エタノール注入法に加えてラジ

Q2 増田院長の専門について聞かせて下さい。 協和会病院においては、総合診療をしています。内科、消化器内科を専門にしています。特にエコー、CT、MRIなどの画像診断を駆使して早期に肝臓癌を発見して従来の塞栓術、エタノール注入法に加えてラジ

Q3 ラジオ波療法とはどのような治療ですか？ 正確には、ラジオ波焼灼療法と申しまして、腫瘍部分の温度を上げて癌細胞を壊死させる方法です。今までの手術方法と異なって、患者様への侵襲が少なく2週間ほどで退院できますから喜ばれています。

Q4 将来の展望は？ 地域のニーズに対応できる特色ある病院作りを目指します。まず外来診療の充実を計ることが優先課題でその一つに眼科の診療を開始したいです。一方、救急医療も今以上に充実させ、吹田、岸部の地に安心して頼れる協和会病院と呼ばれるようになりたいです。なお、日曜、夜間診療も行っていますので御利用下さい。

独居や高齢夫婦の二人暮らしがますます増えるでしょう。これらの人々を支援し、安らぎを提供する仕組みが早急には必要です。私自身、例えば、アメリカで定番となっているアシスト・リビング(ホテルと家の中間に位置付けられるような介護付住宅)での生活援助などを考えています。

私どもは今後も地域の皆様の期待と信頼に応える医療と福祉を推進していきます。ご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

Q1 この15年を振り返ってみていかがですか？ 医療法人協和会の3番目の病院として、救急からリハビリ、訪問看護までを考えた、当時としては新しいタイプの病院を目指してスタートしました。しかし、医師会との協調、地域住民の求める医療など問題が山積し、なかなか思うような医療が展開できずに苦労しました。

Q2 増田院長の専門について聞かせて下さい。 協和会病院においては、総合診療をしています。内科、消化器内科を専門にしています。特にエコー、CT、MRIなどの画像診断を駆使して早期に肝臓癌を発見して従来の塞栓術、エタノール注入法に加えてラジ

Q3 ラジオ波療法とはどのような治療ですか？ 正確には、ラジオ波焼灼療法と申しまして、腫瘍部分の温度を上げて癌細胞を壊死させる方法です。今までの手術方法と異なって、患者様への侵襲が少なく2週間ほどで退院できますから喜ばれています。

協和会病院 15年のあゆみ

- 昭和63年3月 協和会グループ第3番目の病院として開院
- 平成 2年2月 食事療養Ⅰ類取得
- 4月 リハビリテーション総合承認施設取得
- 7月 老人早期理学療法取得
- 12月 服薬管理指導と特別管理給食加算取得
- 平成 3年4月 基準看護取得
- 平成 6年1月 基準看護特1類取得
- 4月 基準看護特2類取得
- 平成 8年6月 院内感染委員会発足
- 8月 夜間勤務等看護加算(Ⅱ)a取得
- 10月 駐車場増設(118台収容)
- 10月 手術室増室
- 平成 9年4月 入院医学管理(Ⅰ)取得
- 平成10年9月 療養型病床群療養環境(Ⅰ)取得
- 療養型病床群医療管理2群(Ⅱ)取得
- 平成11年7月 人工関節センター開設
- 7月 新看護2.5:1A加算、補10:1取得
- 平成12年7月 療養病棟入院基本料(Ⅰ)取得
- ヘリカルCT装置導入(GE横河製)
- 9月 ロボドックによる手術開始
- 平成13年6月 循環器科増設
- 6月 1.5テスラの超伝導MRI装置導入(GE横河製)
- 9月 血管造影装置導入(フィリップ製)
- 平成14年1月 リウマチ科増設
- 5月 回復期リハビリテーション病棟開設
- 6月 骨塩定量測定装置導入(ルナー製など3台)
- 6月 言語聴覚療法(Ⅰ)取得
- 12月 二次救急告示
- 平成15年3月 開院15周年を迎える

「寄稿をお待ちしています。」
【自身の事、ご家族の事、その他身近な話題、ご意見】希望を編集部宛にご寄稿ください。





外来とともに15年



外来 看護師
竹林 司佐恵

竹林 司佐恵

15年前、まだ建設中だった病院のプレハブの事務所で私は面接を受けました。色々な条件に心を動かされ、是非ここで働きたいと思いましたが、工事中の院内も案内していただきましたが、第一印象が「これが病院!!」でした。淡いグリーンで統一され、廊下は広く、手すりもついていて、今まで見てきた病院とは全然違っていました。

開院当初、一般外来はなく、他院の紹介状をお持ちの方だけが対象でした。しかし、「病院が出来た。」というのを聞きつけた「近所の方々が、

少しづつ来院されるようになります。遠方からもリハビリが必要な患者様たちが次々に転院されて来られるようになります。救急も来るようになります。病院も活気が出てきました。

「あ、病院に行ったら、あの看護師さんに出たら元気な元氣だよ」と答えてくれました。その患者様の成長ぶりを見て、私の外来での長さを実感した次第です。

「あの病院に行ったら、あの看護師さんに出たら元気な元氣だよ」と答えてくれました。その患者様の成長ぶりを見て、私の外来での長さを実感した次第です。

協和会病院ご案内

医療法人協和会 協和会病院 吹田市岸部北1丁目24番1号

- 理事長 / 木曾 賢造
- 院長 / 増田 公人
- 開院年月日 / 1988年(S63)3月
- 診療科目 / 内科、循環器科、外科、整形外科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科
- 専門外来 / 眼科(木曜日午後)、泌尿器科(月曜日午後)、皮膚科(火曜日午後)、神経内科(木曜日午前)、血液内科(水曜日午前)、小児科(月・水・金曜日午前)
- 診察時間 / 午前診 9:00~12:00(月~土曜日)
午後診 13:00~15:30(月~金曜日)
夜診 17:30~19:30(月~金曜日)
日曜診 9:00~12:00

※救急は24時間体制で対応します。

- 一般病棟 / 177床
- 回復期リハビリテーション病棟 / 44床
- 療養型病棟 / 89床
- 人工関節センター
- リウマチセンター
- 透析センター

1階ロビーに

栄養相談コーナーがあります。

必要な外来栄養指導と共に様々な栄養・食事についての相談を受け付けています。

駐車場のご案内

周辺道路は駐車禁止になっております。病院駐車場をご利用下さい。

| | |
|---------------|------|
| 2時間まで | 100円 |
| 3時間まで | 200円 |
| 4時間まで | 300円 |
| 5時間まで | 400円 |
| ※以後1時間毎200円追加 | |

118台の
駐車場を完備
しております

送迎バス(無料)

JR京都線「岸辺」駅、および北大阪急行線「桃山台」駅(阪急南千里駅経由)より送迎バスを運行しております。
(発車時刻などは病院までお問い合わせください。)



人間ドック

半日コース

身体測定、採血、採尿、腹部エコー、心電図、頭部CT、呼吸機能、レントゲン、胃透視
※総合所見はデータと共に後日、ご本人宛に郵送します。

1泊2日コース

半日コース+糖負荷試験、眼圧カメラ、心エコー、負荷心電図、採血8項目追加



『和~なごみ~』の場

このコーナーでは、当院入院中および退院された患者さんの活動状況や、ご意見等を掲載していく予定です。

当院を退院され、障害と向き合いながら自宅で生活を送られる患者様はたくさんいらっしゃいます。今回、右半身の運動麻痺という障害を持ちながら充実した生活を送られている、久留島悦治氏を紹介させていただきます。

が病に倒れたのは3年前。外出先からの帰宅途中、急に右半身の脱力感に襲われました。脳出血です。気がつく病院のベッドの上でした。それまで病院とはほとんど無縁だった久留島氏にとって、リハビリという言葉は聞き慣れず、初めての経験ばかりでした。しかし久留島氏は動かない右手・右足を毎日必死に動かし練習しました。「頑張っていれば、いつか動く!」この言葉を支えに、一生懸命でした。しかし、主治医から返ってきた言葉は「右手は動かない。」「久留島氏は、どん底に突き落とされた気分だった」と当時を振り返ります。調理解師だった久留島氏には、右手の麻痺という障害は致命的でした。ショックと不安とまどい。いろいろな思い

が交錯する中で久留島氏は家族への迷惑を心配し、離婚することばかりを考えていました。そんな日々を過ごしながら久留島氏は夫人から誘いを受けます。「クッキーを作ってみない?」と。左手だけの私にどうしてクッキーなんか作れるものか、とふさぎこむ久留島氏を支え、励ましつづけた夫人に久留島氏も徐々に心を動かされます。そして夫人に手伝わってもらいながら作ったクッキーが意外にも上出来に仕上がった時、久留島氏は目が覚めたといいます。

「どんな困難な状況でも、やる気があればできる。」久留島氏を担当していた当時の当院作業療法士により、工房ヒューマンが紹介され、これが運命的な出会いとなり、久留島氏は水を得た魚のように

な状況を生み出します。しかし決して「障害者」であることが「不幸である」とことにはならないということが久留島氏からのメッセージであると、私は感じました。
(広報誌委員会・奥田久美子)



広報誌「和~なごみ~」は以下の委員により編集されます

- 池田 友子 (臨床検査技師)
- 奥田久美子 (理学療法士)
- 柏木 敏宏 (言語療法科科長)
- 北村 博司 (放射線科科長)
- 斉藤 道子 (言語療法科助手)
- 杉原 幸恵 (二階病棟主任)
- 網嶋 準 (医事課)
- 中村 宣雄 (人工関節センター長)
- 萩原 峰乃 (看護部部長)
- 浜田 律子 (三階西病棟看護師)
- 前田千保子 (手術室課長)
- 山口 里美 (四階病棟看護師)



次号予告

7月発行予定の次号では、整形外科領域で今注目を集めている人工関節(股・膝)手術に用いる**手術ロボット**について紹介します。ロボット手術は、当院が日本でのパイオニアです。

